

洋服としても着られる長襦袢を開発、
新発想で着物の着用機会を拡大

平成21年度 採択事業

“手を抜いて”楽しむ普段着の着物

たなかきょうこさんが運営する「彼方此方屋」は、リサイクル着物や自然素材にこだわったオリジナル着物の販売を通して“着物暮らし”を提案するコンセプトショップ。一般的な呉服店とは違い、日常的に楽しく着物を着ることをテーマにしているので、「普段はこんな楽な着方でいいですよ」という思いも込めて、たなかさん自ら“Tシャツに着物”というラフかつ粋な着こなしで接客に立ちます。

そんなたなかさんの原点は、祖母との暮らし。子供の頃に同居していた明治生まれの祖母は、一年中着物の人だったといいます。お出掛けの時にはきちんと長襦袢を着るけれど、普段は半襦袢に直接衿を付けて、下は腰巻きだけ。その上に着物を着るという非常に簡略化した祖母の着方は、いつも身近で見ていたたなかさんにとっては当たり前であり、魅力的でもありました。「昔の人は本当に楽に着ていたし、いかに手を抜いて着るか工夫していた。現代にも、現代の生活に合った手の抜き方がないと…」。

不定期に訪れる着物ブームと、深刻化する着物離れ。着物に興味を持つ人は多いはずなのに、なぜか定着しない。その理由は着付けの面倒さと、洋服との互換性の無さだと考えたたなかさんは長年温めてきたプランをファンドの後押しでついに結実させ、洋服としても長襦袢としても着られる『とわえ』の製品化を実現しました。



新開発の『とわえ』

14年掛かりの構想が結実した自信作

『とわえ』はセパレート式の長襦袢で、上下それぞれが

伝統製品の活用

女性起業

Tシャツ、巻きスカートとして単独でも楽しめます。Tシャツの胸元デザインは着物の打ち合わせと同じカシュクールタイプ。長襦袢として着用する時は、衿のパーツをボタンで取り付けます。袖のパーツも同様に取り付けますが、Tシャツ側の袖部分が2段レースになっていて、どちらに付けるかで衿の長さが調節可能。また、胸部分にはソフトカップが入られる内ポケットが付いているため下着なしでも着用でき、補正にも対応できます。「パーツをはずしてTシャツだけにすると、完全に洋服として着られる。これがまさか長襦袢になるとは思えないような、洋服として完成した形にしたかった」とたなかさんが語るように、細部にまで工夫を凝らしたデザイン・機能は、特許も取得した自信作です。

実は、『とわえ』の発案から製品化までには、14年の年月が費やされています。幼少時の環境もあって、もともと着物好きだったたなかさんは大人になり、結婚してからも着物はよく着ていました。それも高級呉服ではなく、母親のお古のウール着物や弘法さんで見つけてきた2、3千円の着物を、祖母ゆずりの“普段着着物”の着こなしで楽しんでいました。そんななかで、もっと楽に簡単に着られる長襦袢があったらいいなと、『とわえ』の原型みたいなものを漠然と考えていたといいます。それが今から14年前。しかしその頃は普通の専業主婦だったため、製作してくれるところを見つけることも、自分でつくることもできず、そのままになっていました。その後、諸々の経緯を経て、8年前の平成14（2002）年にリサイクル着物のショップを開業。徐々に人脈もでき、製品化実現への道が見えてきます。



『彼方此方屋』正面玄関にて

ファンドの支えで計画が一気に進展

ショップの運営と並行して長襦袢の開発も継続し、「和装・洋装兼用着」で申請していた特許も平成22（2010）

きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業
平成20年度・平成21年度 事例集

年7月に取得できました。しかしその一方で進めていた、サンプル製作が難航。依頼したのが着物のことをよく知らないアパレルの業者だったため、なかなか思い通りのものが上がってこないのです。そんな時に応援ファンドの募集を知り、応募。助成金とハンズオン支援のおかげで、計画は一気に進展します。

彼方此方屋のこだわりでもある素材については、Tシャツはオーガニックコットンを。ボトムはすべりのいい素材でないといけないので最初はキュブラで考えていましたが、実際は生地が弱いことがわかり、ウォッシュャブルシルクに変更。上下の素材が違うために型染めの件でも問題が出ていたのですが、これも解決。さまざまな素材でテストを受けられ、適切な修正が行えたのも、ファンドの支援があったからこそでした。

道行く人の2割を着物姿に…

「着物に興味はあるけれど、着るのが面倒」「1年に何回着るかもわからないのに、小物もたくさん揃えないといけないしお金もかかりすぎる」。たなかさんはそんな声を何度も耳にしてきました。『とわえ』は、そんな一般認識を覆し、普段着着物の魅力を大勢の人に伝える役割を担います。ただ、洋服としても着用できるからといって、単なる和柄Tシャツと巻きスカートになってしまうと意味がありません。なぜこの製品が生まれたのか、そのコンセプトがぶれることのないよう大切にしながら全国へ、そして将来的には海外へも販路を広げていきたいと考えています。

彼方此方屋には創業時に立てた「30年構想」というのがあるそうです。「道行く人の2割ぐらいが着物姿になるような世界を実現できたらいいなと…」。そんな壮大な夢がエネルギーとなって、たなかさんを素敵に輝かせています。

事業概要

おちこちや
彼方此方屋

http://www.ochikochiya.com

代表：たなかきょうこ

業種：リサイクル及びオリジナル着物小売業

創業：平成14（2002）年

住所：〒600-8054

京都市下京区仏光寺通柳馬場東入仏光寺東町 112-1

TEL：075-344-4566 FAX：075-344-4566